

# ひとり親家庭の窮乏深刻

# 子どもたちの体と学びを守れ

## だれも取り残さないセーフティネットを

6月1日から小中学校の一斉登校が再開されました。3カ月にわたる臨時休校、外出自粛で子どもたちの心身に様々な影響が出ています。

特に、家庭学習ではそれぞれの家庭の教育環境の違いが格差を広げてしまつて

**学校再開後、子どもたちの学びと生活にしっかりと寄り添って**

2月、客船ダイヤモンド・プリンセスで新型コロナウイルスの集団感染が発生しました。その後、別ルートから感染は全国に広がり、小中学校は3月2日から臨時休校となり5月22日まで続きました。4月7日の緊急事態宣言後、市民は、家にこもり経済活動を自粛し、マスクに声を潜め、友人知人と談笑することもできず鬱々とした日々を過ごしました。ただただ災難が通り過ぎるのをじっと耐えるしかありませんでした。小郡市民の生活にも深刻な影響が出ています。しんばる議員は、子どもから高齢者まですべての市民を守る支援策について質問しました。

## まちから笑顔が消えた

**スクールカウンセラー増、相談カードで子どもの悩みに対応**

夜ふかしなど生活リズムの変化や親の収入減少などによって不安を抱える子ども

いないか心配されます。スマホやゲーム依存になつていないか、食生活はどうだったかなど一人ひとりの変化が気になるところです。



発行  
しんばる善信後援会  
小郡市小郡1304-2  
0942-73-2123

もたちにきめ細かく寄り添っていくために教育委員会は、スクールカウンセラーを増やし、電話相談カードを全児童生徒に配布しました。

## 市が給食費を負担

子どもたちは、臨時休校となつた4・5月は家庭で昼食をとりました。市は、経済的に厳しい就学援助家庭(約17%)に、昼食費として給食費相当額を給付します。また、夏休み短縮で授業を行う8月分の給食費は全員分、市負担とします。これらの対策は、他自治体がない小郡市独自のもので、子ども支援策として高く評価されます。

## 消毒担当を緊急雇用

学校では感染予防のため毎朝体温チェックを行い、原則マスク着用、エアコン使用時も教室換気をまめにを行い、3密にならないような学習内容・方法を工夫することにしています。また、

市は消毒を行う担当者を緊急雇用し中規模以上の8小中学校に配置します。

## 夏休み短縮なら熱中症対策万全に

臨時休校で減つた授業時間を補うため、夏休みを8月7日から20日までの2週間に短縮します。それでも約60時間不足しますが、行事や学習内容の精選等で年度内に終わらせる計画です。

最も暑さの厳しい時期なので、登下校も含めた熱中症対策が必須です。マスクのつけ方、エアコン、水分補給など配慮を求めました。

## 市指定研究委嘱中止

教職員は、感染予防に気を配りながら授業を進めるという難しい課題に直面しています。このため、市教育委員会は、研究委嘱や各種調査など取りやめ、業務負担軽減を図るようになっています。

# 生活資金貸付、住居給付金申請が急増 新型コロナから市民生活を守る

## 定額給付金10万円、市職員は休日返上・深夜まで作業し、早期給付に奮闘

新型コロナの影響で、失業、離職、収入減少した市民から生活資金貸付、住居給付金の申請があいついでいます。あすてらすにある社会福祉協議会の窓口には、申請書が出されています。一方、国からの特別定額給付金10万円については、市職員及び人材派遣職員で給付のための特別体制を組んで事務作業にあたり、6月中旬に市民への給付がほぼ完了しました。

### 2つの生活資金貸付 急増

緊急小口資金は20万円以内、総合支援資金は、2人以上の世帯で月20万円以内、3カ月分、償還開始までの据置き期間延長と、無利子など特例措置があります。6月8日時点で緊急小口資金138件、総合支援資金41件の申請があり、今後さらに増加する見込みです。

### 住居確保給付金も20件

離職等により住居を失うおそれがある市民に、原則3カ月間、最大で9カ月間、家賃相当額を市から家主へ直接支給する制度です。6月8日時点で、20件の申請がなされています。

### 食料「まごころパック」

市は、新型コロナによる影響で困窮状態の市民に、米・野菜・パンなどと共に生活支援情報を詰めた「まごころパック」を届けることにしています。食料の多くは、市内の障害者福祉作業所で作られていて、市では、命と支援をつなぐ取り組みと位置づけています。6月23日時点で、121件の申し込みがありました。

### 税金減免や猶予申請も増加

国民健康保険税、国民年金保険料、市民税などの減免や猶予の相談が増えています。国保税38件、年金4件、市民税約130件の相

### 事業者への支援

談があったということです。営業自粛や客の激減で事業継続が難しい飲食店などの事業者が続出しています。小郡市は、国、県の支援に上乗せして応援金10万円、家賃支援金10万円を給付することにしました。6月23日時点で、応援金340件、家賃支援金53件が給付されました。

### ひとり親家庭への支援

児童手当を受給している世帯（全世帯中学生まで7536人）に子ども一人あたり1万円、ひとり親家庭など児童扶養手当受給家庭の子ども（高校生まで675人）にはさらに1万円支援金が給付されます。今後、国の第2次補正予算でひとり親家庭には世帯当たり5万円、子ども2人以上は一人当たり3万円加算され、8月末に給付予定です。

### 特別定額給付金ほぼ完了

新型コロナ対策の目玉である全国民に1人当たり10万円を給付する特別定額給付金は、6月23日時点で申請のあった約24000世帯のうち23551世帯（98%）に給付が終わりました。総額57億2490万円になります。

5月28日から約1月で給付できたのは、特別作業チームが土日返上、深夜まで頑張ってくれたおかげです。

まだ給付されていない世帯には再度通知を出し、全世帯給付につながることにしています。

### 7月の臨時議会で新たな支援策決定

国の第2次補正予算成立を受け、小郡市は国の臨時交付金約5億円を活用した次の支援策を策定中です。7月21日の臨時議会で議論し決定することになっています。

## 市民の健康な生活を守るために

## 医療・介護・障害者福祉施設とつながる

## 新型コロナ、人権に配慮し、正しくおそれる

4月12日、小郡市で初めての感染者が出ました。市は、県の保健所と密接に連絡を取り合いながら、対応に当たりました。公表に当たって市長は、「感染された方の人権尊重と個人情報保護に、ご理解とご配慮をお願いします」と述べました。とても大事な点だと思えます。その後、幸いに軽症で回復されました。市は、医師会や保健所、介護施設、障害者福祉施設と頻りに連絡を取り合い、現状の把握、必要な支援対応に当たりました。

## 感染してはいないか心配

市民は自分が感染してはいないか、もし感染していたらどうすればいいか不安です。特に、これまで治療のために病院、医院などへ通っていた人たちが、病院に行つて診察を受けていいものだろうかと迷っていました。

## 電話で相談してから行く

市は、医師会と相談し、広報紙で受診の仕方を詳しく知らせました。発熱などの症状がある時は院内感染を防ぐため、必ず事前に電話で相談するよう呼びかけました。その上で、新型コロナについて「かかりつけ医による電話相談窓口」を

設置してもらいました。

## 介護デイサービス等は継続

介護支援を必要とする高齢者のデイサービスや訪問介護は、分散通所や対策を講じたうえでサービスを続けました。そのために市は、対応マニュアルを届けメールによる個別相談やマスク・消毒液の配布などの支援を行いました。

## 独居高齢者の安否確認

75歳以上の独居高齢者約1600人に電話による安否確認を実施しました。外出自粛による体調変化などを尋ねるようにしました。

## 障がい児デイサービスが子どもの居場所に

小中高校が臨時休校となったため、障がいを持つ子どもたちの居場所が心配されました。市内の放課後等デイサービス事業所が受け入れることになりました。徹底した感染防止対策をして乗り切ることができました。

## 学童保育所、保育所・幼稚園、緊急事態を下支え

学校の臨時休校中も学童、幼稚園・保育所は子どもたちを預かりました。保護者の仕事が続いていたからです。特に学童は、想定外の終日預かりで指導員の確保等の問題が起きました。子どもたちの感染防止を図りながらの業務で職員の負担は重いものでした。

## 市民の協力に感謝

緊急事態のもと、市民一人ひとり、そして事業所の

頑張りや協力という下支えがあつて何とか市民生活を維持できています。関係者の努力に感謝するとともに、それを支援する行政・議会の役割、責任を痛感します。

## 新型コロナ、正しく恐れる

市民は、新型コロナウィルスというものを目に見えないがゆえに余計に怖いもの、忌み嫌うべきものとしてとらえています。このような不安な心理から、風評被害や感染者や家族に対し、あるいは医療従事者に対する差別や偏見が生まれています。

私たちがやるべきことは、新型コロナウィルスの脅威から自分やまわりにいる大切な人を守るためそれぞれが自分にできることをやることです。そして、うわさやデマに惑わされることなく正確な情報を理解し「正しく恐れる」ことです。

### この1さつ



**負けてたまるか！  
日本人**  
丹羽宇一郎、保阪正康

昭和史の研究で知られる作家の保阪正康氏と元伊藤忠社長で中国大使をつとめた丹羽宇一郎氏の対談集です。ともに昭和14年生まれで、戦中戦後に幼少期を過ごした経験を持っています。本書について保坂氏は「太

平洋戦争終結直後に民主主義教育を受けた世代が、戦後75年の間に何を学んだかを総括した書」と言っています。話は、昭和史、現代政治、リーダー論、日中関係、読書など多岐にわたり二人の

博識に大いに刺激されます。特に戦争と平和に関しては、戦争反対のスローガンより「戦争に近づかない」ことが大切といっています。さて今の政府は戦争に近づいているのかどうか・・・。

蓄があります。ところが、お互いに相手の在庫を十分把握できていませんでした。縦割り行政にありがちな情報の全体的把握と共有不足が図らずも露呈し、改善が求められます。

(よし)

## 7月1日 リニューアルオープン

生産者直売所

# 宝満の市



あすてらすにあった野菜の直売所「宝満の市」が新しくなりました。天の川橋の北に新築され、生産者の名前の入った旬のキュウリ、ピーマン、ナスなど新鮮な野菜が並べられています。地産地消を発信する拠点となつてほしいと期待しています。

## 洪水時避難、 新型コロナ対応どうする

### 3密避けて分散避難 避難所7から11に増設

2年続けて浸水被害が出た地区では、避難所へ行くにも新型コロナウイルスへの不安があります。市では避難所を増やして少人数とするとともに発熱者等体調不良の避難者のために段ボール間仕切りの備蓄を行いました。また、必ずしも避難所ではなく、自宅の2階や親戚・知人宅など安全な場所への避難も呼び掛けています。

### マスク、体温計、食料 を持って避難

避難する時は、必ずマスクをつけ、検温用の体温計消毒液などを自宅から持ち参り避難者どうし2メートル間隔をあけるようにしています。市では、危険が迫っているときはちゅうちよなく避難するよう知らせ、安心できる避難所運営を行うとのこと。

### 議会の問答

### マスクはどこに？

今議会の質問者は、新型コロナウイルス対応で多忙な職員に配慮していつもより少ない10名でした。全員が新型コロナウイルスに関係する内容でした。その質問の中に、小郡市が備蓄しているマスクについてのもがありました。3月ごろからマスク不足が深刻になり、市や学校等の業務継続のために市の備蓄マスクを使用しました。3月から5月までに合計7794枚が使われました。